



土橋の子

平成 25 年度 2 月号
第 1 2 1 2 号
日置市立土橋小学校
平成 26 年 2 月 27 日 発行

「給食を食べているのだから、うちの子には『いただきます』と言わせないでほしい。」

毎月 19 日の「食育の日」には、指導資料「いただきます〜す」を配布しています。今月号には、1 年のまとめとしてチェックリストが掲載されており、その中に「『いただきます』『ごちそうさま』の挨拶がきちんとできましたか？」という項目がありました。これを読み、以前、あるラジオ番組で、標題の言葉を学校に申し入れた保護者がいたという手紙が紹介され、大きな反響があったことを思い出しました。残念なことに、この類の話は全国のあちこちの学校であると聞きます。はてさて、「いただきます」は、何に対する言葉なのでしょう。

長崎県立島原農業高校には、生徒が自分達で雛から育てたニワトリをさばいて肉にし、自分達で育てた野菜も使ってカレーを作って食べるという実習があります。ニワトリの頭を落とすとき、包丁を手取る生徒、頭を押さえる生徒、周りで見守る生徒、みんなが涙を流すそうです。しかし、誰も目をそむけません。それは、教師が事前に「目をそむけるのが一番失礼なこと」と教えているからだと言います。

今、食品に使われる動物の生前の姿を見る機会は少なくなっています。肉は全て切り身がきれいに包装されて店頭で並ぶため、姿どころか肉塊さえも目にしません（嘘だと思われるかも知れませんが、喜入で牧場を営み、都会からの中・高生の体験学習を受け入れている方のお話では、彼らの中には、魚が切り身の形で泳いでいると思っている子どもも少なからずいるそうです）。そのためでしょうか、今の日本人には「命をいただいている」という感覚が薄れてしまっているようです。

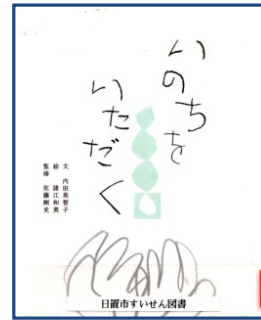
さて、先の実習を終えた生徒の感想は、次のようなものでした。

- ・ 最初はかわいそうと思ったけど、命の大切さを感じ、無駄がないように作ろうと思った。
- ・ 自分達のために肉になったんだ。ちゃんと食べてあげないとかわいそう。
- ・ 命を取ってごめんなさい。大事にいただきます。
- ・ 感謝して食べようと思った。これからは、好き嫌いせずに何でも食べたい。

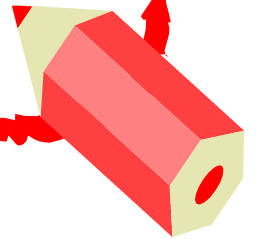
先月号で、「子ども達に『繋がり』に気付かせることは、とても大事なこと」と書きました。この実習を通して、生徒は自分の命とニワトリの命との「繋がり」が見えたわけです。「人が生きるといことは、食べるということ。命をいただくということ。私たちの命は、多くの命に支えられているということ。人は『生きている』のではなく、『命をいただきながら、生かされている』ということ。」に、この実習が気付かせてくれたわけです。食べ物のありがたさや食べ物を粗末にしてはならない理由は、ここにあります。

… 日本は、全食糧の半分以上に当たる年間 5500 万トンの食糧を輸入しながら、その 36% に当たる 2000 万トンも捨てるという世界一の廃棄大国です。これは、発展途上国 3300 万人の年間食糧に相当するそうです。私達は、実に多くの命を粗末にしています。

※登下校や休日は、交通安全に十分気を付け、交通事故に遭わないようにしましょう。また、不審者にも十分気を付け、一人で遊んだり、道路を歩いたりしないようにしましょう。



1月22日（水）に市中央公民館で開催された市学校保健研究協議大会時の講演会の講師は、熊本市食肉センターで食肉解体の仕事に携わる坂本さんでした。坂本さんは、「いのちをいただく」（内田美智子、西日本新聞社、2009）という絵本のモデルとなった方です。この絵本は、「食べ物には命がある。それをいただくとは、どういうことか。」を教えてください。市の推薦図書として、図書室に置いてありますので、ぜひ親子で読んでみてください。



おめでとう!! 第61回南九州美術展

子ども達の頑張りで、3名（幼稚園2名、小学校1名）が特別賞を受賞した他、たくさん子ども達の作品が入賞しました。また、昨年度に引き続き、幼稚園、小学校共に学校賞をいただきました。192校中10校が学校賞を受賞していますが、その中の二つが土橋幼稚園と土橋小学校でした。

南九州美術展授賞:



【県市長会会長賞】 さん



【 さんの作品】
「うさぎのれっしゃにのりたいな」

【描画】

《特別賞》

土橋幼	南九州美術展賞	(年中)
〃	鹿児島読売テレビ賞	(年長)
土橋小	鹿児島県市長会会長賞	①

【入選】 ① ③

【版画】

【特選】	③	⑤	⑤
	⑥		

【入選】	③	⑤
	⑤	⑥
	⑥	※ ○は学年